

# 令和7年産 大麦栽培こよみ 高品質で、売れる大麦づくりを目指して！

令和6年9月  
 ●射水市 ●JA いみず野  
 ●射水市農業技術者協議会  
 ●高岡農林振興センター

## 【収量構成の目安と品質目標】

収量	400kg/10a
穂数	450本/m <sup>2</sup>
2.3mm以上	85%
千粒重	35g
硝子率	40%以下

## ■目標苗立数と播種量の目安

播種時期	目標苗立数 (本/m <sup>2</sup> )	播種量の目安 (10a当たり)
		ドリル播
9月26日～	140	6.0kg
10月上旬	150	6.5kg
10月中旬	200	8.5kg

※ドリル播の播種深度は3cm程度とする。  
 ※10月上旬まで播き終わらしましょう。  
 ※播種量は、苗立率80%で算出。

## ■施肥の目安 (ドリル播、10a当たり)

施用時期	資材名・施用量
耕起前	土カパワー 100～150kg
	発酵ケイフン 100～150kg
播種時	エコ大麦44号 40～45kg

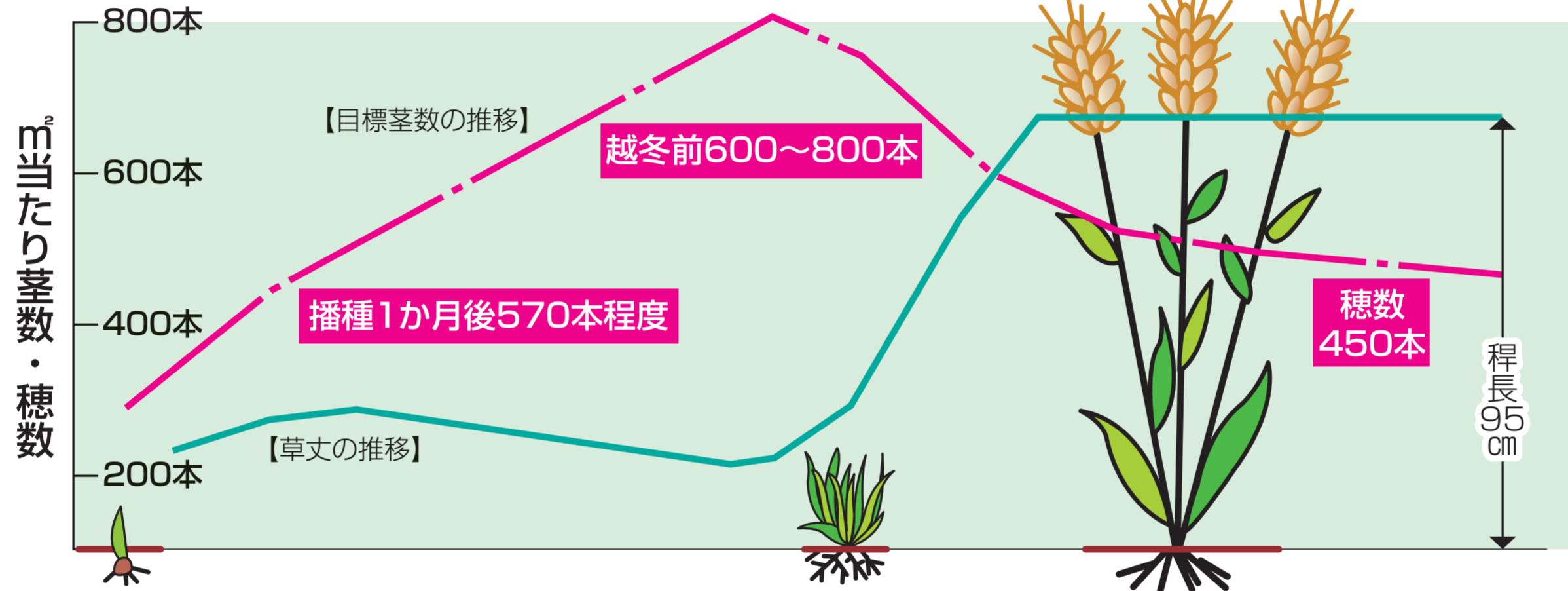
## ■除草剤

散布時期	カラスノエンドウが多い場合	対象雑草	薬剤名	10a当たり	散布方法
播種後～麦2葉期 (雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)	播種2週間後	1年生雑草 (カラスノエンドウ カズノコグサ)	リベレーター-G	4～5kg	全面土壌散布
	播種3週間後	1年生雑草 (カラスノエンドウ カズノコグサ)	リベレーターフロアブル	60～80ml (水100ℓに希釈)	雑草茎葉散布又は、 全面土壌散布
大麦節間伸長開始期まで (広葉雑草2～4葉期) 収穫45日前まで		1年生広葉雑草	エコパートフロアブル	50～100ml (水100ℓに希釈)	雑草茎葉散布又は、 全面散布

除草剤の効果を高めるため、碎土率を高めましょう。

## 初期生育確保のためのポイント

1. 排水対策を徹底し、碎土率を高め、苗立率を向上させる。
2. 播種時期に応じた適正播種量を厳守。
3. 基準基肥量を守る。

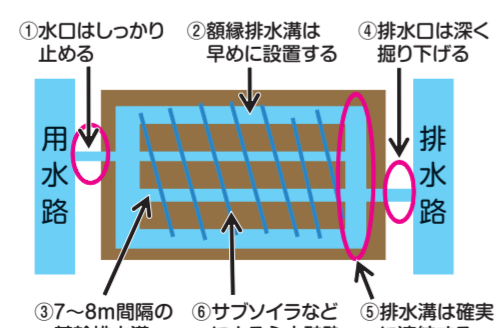
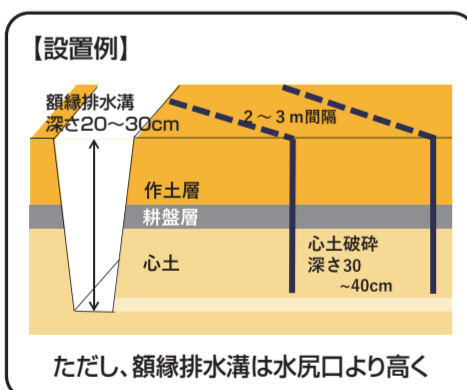


【刈取りの目安】  
 ・茎葉と子実の殆どが黄化  
 ・屈曲した穂の割合が50%程度  
 出穂後45日頃  
 子実水分23%  
 になってから3日目頃



## 栽培管理のポイント

は田面が乾いた状況で収穫する。  
 枕地に水たまりができないように、前作水稲で



● 排水対策の徹底  
 ● 稲刈り後直ちに額縁排水溝や基

● 消毒済種子の使用 (農協購入種子は消毒済み)

● 土づくり  
 ● 耕起前に発酵ケイフンを100～150kg/10a施用する。

● 100～150kg/10a施用する。  
 ● 土壌pH6.0～6.5を目標に耕起前に「土カパワー」を

● 耕起・碎土・播種・作溝

● 雑草の多い場合は、除草剤を  
 ● 播種機にサイドリッジを付  
 ● 基肥量や播種量は、播種時期

● 行い、碎土率を60%以上に高  
 ● 耕起作業は土が乾いた状態で  
 ● 一連の作業は1日で行う。

● 排水溝の手直し

● 水溝は随時点検、手直しを行う。  
 ● 湿害を回避する為、ほ場に水がたまらないよう排  
 ● 排水溝は随時手直し。

● 赤かび病の防除 (遅れると防除効果が低下)

● 刈取り調整

● 清掃を徹底する。  
 ● 異種穀粒の混入を防止するためにコンバインの

● 除去する。

● 収穫前に、ほ場内からカラスノエンドウ等を

● 刈取りの目安は、屈曲した穂の割合が50%程度

● 子実水分23%から

● 出穂後45日頃

● になってから3日目頃。

● 雑草管理 (次年度産大麦) 排水対策

● その手直しを徹底する。

● 壊が速やかに乾くよう、水稲作付期間の溝掘り

● コシヒカリあとに作付する場合、稲刈り後の土

● 早生あとの作付を基本とする。

● るので、大豆や園芸作物・緑肥等の作付に努める。

● 収穫後のほ場を放置するとカメムシの発生源とな

大麦あとを有効活用し、大豆・園芸作物作付による収益確保、緑肥作付による土づくりを行いましょ。